

HUMAN
D P

オープニング講演会

第10回 くまもとアートポリス推進賞 表彰式

くまもとアートポリス2004と
ユニバーサルデザイン展



宝くじは
豊かさ築く
チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に
役立てられています。

次 第

日程：平成16年11月25日(木)

場所：くまもと県民交流館「パレア」
10階パレアホール

■ オープニング式典 (14:00~14:55)

(1)主催者挨拶 熊本県知事 潮谷 義子

(2)来賓者挨拶 釜山副市長 金丘 炫

(3)くまもとアートポリスコミッショナー挨拶 高橋 航一

(4)第10回くまもとアートポリス推進賞表彰

■ オープニング講演会 (15:00~16:10)

講 師 見城美枝子

テーマ

「魅力ある建築—美しさと優しさのデザイン」

日本の住宅は西洋の壁に囲まれた石造りの建物とは違い、木と紙と土を基本に作られた開放的な住まいです。

私たちは多くの日本的なものを捨て去ってきましたが、現代にも適応するであろう生活文化の知恵をその中から探ってみましょう。



見城美枝子氏
(青森大学教授)

元TBSアナウンサー。海外53ヶ国以上訪問。

現在、青森大学社会学部教授。テレビ番組への出演の他、エッセイスト、ジャーナリストとしても活躍中。

〈現在の就任〉

- 日本リーダー養成協会理事長
- 公共建築賞審査委員会委員 他多数。

第10回くまもとアートポリス推進賞の選考を終えて

選考委員長 堀内清治

平成16年も段々おしつまり、今年もアートポリス推進賞受賞者を発表する時期がやってきた。今年も熊本県では依然として不況の声が著しかったので、どうなることかと心配していたが、今年は50件が応募された。

その選考委員会は、ほぼ昨年と同様であったが、安達憲政氏(熊本日日新聞社文化生活部編集委員兼論説委員)と陣内秀信氏(法政大学教授)がお入りになったが、全体では、去年と同じく8人であった。

応募された全作品を全委員が実際に拝見するのが一番良いが、それは時間の都合で無理なのは分かっているから、やはり書類審査で数をしぼるしかないので、第1次審査をおこなって、現地審査をする必要のある作品を選び出す他にない。第1次審査の結果、10件の現地審査作品を決め、現地審査の結果、ここにあげた5作品に決定した。

この委員会では、これまで推進賞と推進賞選賞の二つの賞を決めてきた。選賞は、推進賞とするには、いささか難しいという意味に使っていたように思う。然し、今回の東海大学第二高等学校のように、設計スタッフも充分揃っており、その分業ぶりも手馴れた大きな事務所の設計と小規模事務所の設計を同じ視点で比較するのは難しかった。結局今年の推進賞には、九州新幹線新水俣駅、S. W. H.、及び田迎の家の3件、推進賞選賞には東海大学付属第二高等学校、及び宮原町の「ひだまりのまち B⁴」の2件がそれぞれ選ばれた。それぞれの建物の所見は、選考委員が分担して執筆されている。

くまもとアートポリス推進賞は本来何を目標とする

ものだろうか。熊本県が出版しているパンフレットには、冒頭に「後世に残り得る文化的資産を造ります」と書かれている。最近、建築の耐用年数が短くなって、鉄筋コンクリートの集合住宅の広告に、耐用年数を30年とするものを見かけるようになった。もし現代の建物の耐用年数が30年しかないとする、「後世に残る文化的資産」とはなり得ないことは言うまでもない。今回の「田迎の家」はこの問題に真向から向き合った仕事のように思える。欧米と違って、木造建築を造ってきた日本では、建物を長持ちさせるために色々な工夫が凝らされてきた。「田迎の家」は建造後、すでに150年程経っているらしい。その位の年数を経ると、それまでの小修理ではなく、一度すべてを分解して、老朽化した部材を取り替えるための解体修理が行われる。これを繰り返すことによって木造の建物も無限の寿命を得ることができているようになっていた。

今回の田迎の家は築後150年に当たっての解体修理に相当する。その成果は今後100年はもつだろうと建築家は、控え目に述べている。

100年という数字が何時頃からその現場で語られていたのかは知らないが、施主も建築家も職人もこの覚えやすい数字を合い言葉として働いたとすると、その願いは、首尾よく実現されることだろう。

選考委員会 (50音順)

安達 憲政(熊本日日新聞社文化生活部編集委員兼論説委員)
桐敷真次郎(東京都立大学名誉教授)
陣内 秀信(法政大学教授)
轟 多朗(デザイントロキ代表、熊本県文化協会理事)
早川 邦彦(早川邦彦建築研究室代表)
星子 邦子(オフィスホシコ代表)
堀内 清治(くまもとアートポリスアドバイザー、熊本大学名誉教授)
渡辺 定夫(東京大学名誉教授)

選考経過

募 集 平成16年7月20日～8月23日 応募件数50件
書類選考 平成16年9月17日
現地審査 平成16年10月11日～13日 現地審査件数10件
最終選考 平成16年10月13日 推進賞3件、推進賞選賞2件
表彰式 平成16年11月25日

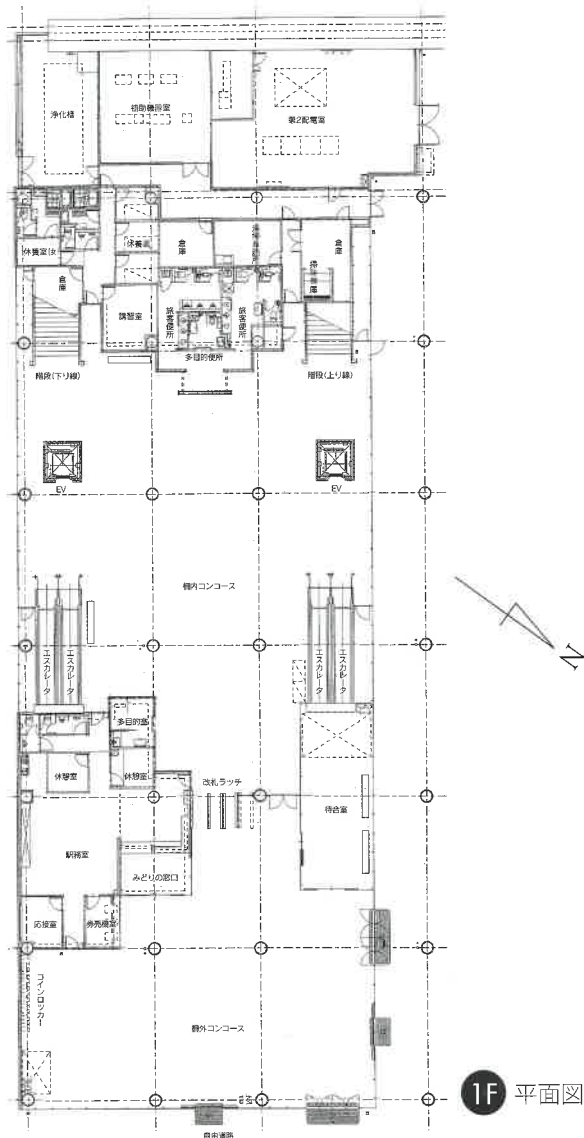


くまもとアートポリス
推進賞

kumamoto artpolis

九州新幹線 新水俣駅

- 所在地 ■ 水俣市初野305-5
 竣工年月 ■ 平成16年3月
 用途 ■ 駅舎(新幹線)
 構造 ■ 鉄骨造2階建(土木く体はRC造)
 階数 ■ 地上2階
 敷地面積 ■ 3,494.44㎡
 建築面積 ■ 2,147.61㎡
 延床面積 ■ 6,146.91㎡
 事業主 ■ 鉄道建設・運輸施設整備支援機構
 鉄道建設本部 九州新幹線建設局
 設計者 ■ 株式会社西部交通建築事務所
 渡辺誠/アーキテクトオフィス
 施工者 ■ 奥村・白石・光進 特定建設工事共同企業体



1F 平面図

従来のイメージを大きく打ち破る斬新なデザインの新幹線の駅が、水俣に出現している。駅がもつべき機能をシンプルな形で表現しつつ、近未来の鉄道施設にふさわしいスピード感に溢れたユニークな形態を見事に示している。アルミメッキ鋼板による細長い矩形のピースを壁から屋根に連続して用い、流れる一体感のある駅舎の形態を生んだ発想が卓抜である。駅機能を包み込む閉じた印象を与える外観だが、その鋼板の角度を変えて光と風が駅舎内に流れ込むように工夫され、空間全体が自然と共に呼吸する不思議な面白さがある。駅構内の大空間をゆったりと覆う構造体の美は、どこか19世紀のヨーロッパの終着駅の建築をも思わす。水平に走るルーバーのそれぞれの隙間からは、緑に包まれた背後の山並みの姿が透けて見え隠れし、土地と繋がった意外性のある風景と出会える。疾走する通過列車をこのホームで見送る建築体験もまた迫力満点だ。駅前広場の造形にも丹念に目を配り、環境デザイン全体を同じコンセプトでまとめる姿勢が見られる点も高く評価できる。

(陣内秀信)



夜の外観(北側)



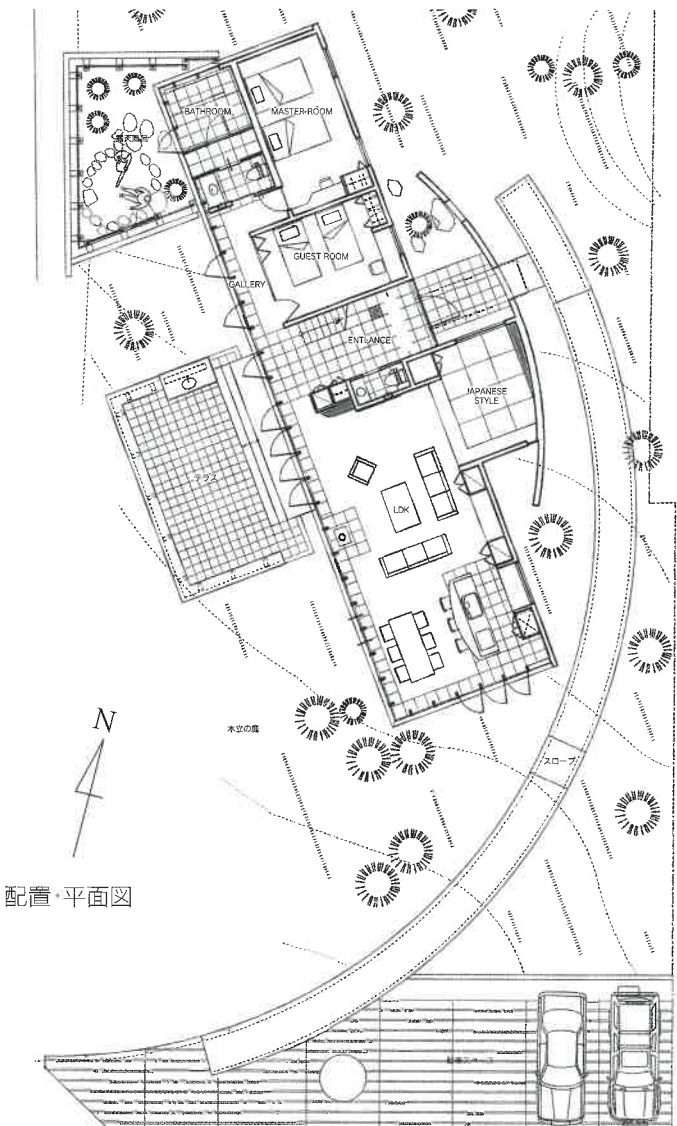
撮影/(株)アイオイ・プロフォート

ホーム



S.W.H

- 所在地 ■ 熊本県阿蘇郡長陽町村大字河陽字
下鳥小塚4750-32、42
- 竣工年月 ■ 平成15年12月
- 用途 ■ 週末別荘
- 構造 ■ 鉄骨造一部鉄筋コンクリート造
- 階数 ■ 地上1階
- 敷地面積 ■ 857.00㎡
- 建築面積 ■ 145.92㎡
- 延床面積 ■ 141.42㎡
- 事業主 ■ 下村初幸
- 設計者 ■ 有限会社ロクス
- 施工者 ■ 株式会社橋本建設
有限会社サンユー電気設備工業



芝生の海に浮かぶガラスのボックスが、隆起のある敷地内に角度を振って静かに置かれている。阿蘇、長陽村にある分譲別荘地区で、数多くの山小屋風別荘が立ち並ぶ中、辿り着いた「S. W. H」は異彩を放っている。エントランスまでは、斜面にゆるやかな曲線をもせる導入路。室内に入ると正面は、陽光が眩しい全面ガラス仕上げ。明るく開放的な空間に、センスのいい家具が並ぶ。ゆったりとしたテラスも付帯している。浴室もトイレも目の前はガラス窓。端正で、直線的なデザインの外観と広く明るい室内は、贅沢な休日過ごすための非日常空間を気持ちよく作り上げている。この充分すぎるような開放感をどのように捉えるかは、住人の生活感覚によるだろう。また、快適な維持管理に関しては相応の手が掛かることだろうが、それを忘れてしまうくらいの気分よさを感じた。角地にある敷地をより広く感じさせるのは、建物自体の角度を振るというアイデアの産物だろう。作りたいものを、そのままに作った爽快感を別荘全体に感じた。審査を終えての帰路、山道を走る車窓から、真っ赤に染まった見事な入日が見えた。あのテラスで眺めたかったなあとと思った。

(轟 多朗)



外観(西側)

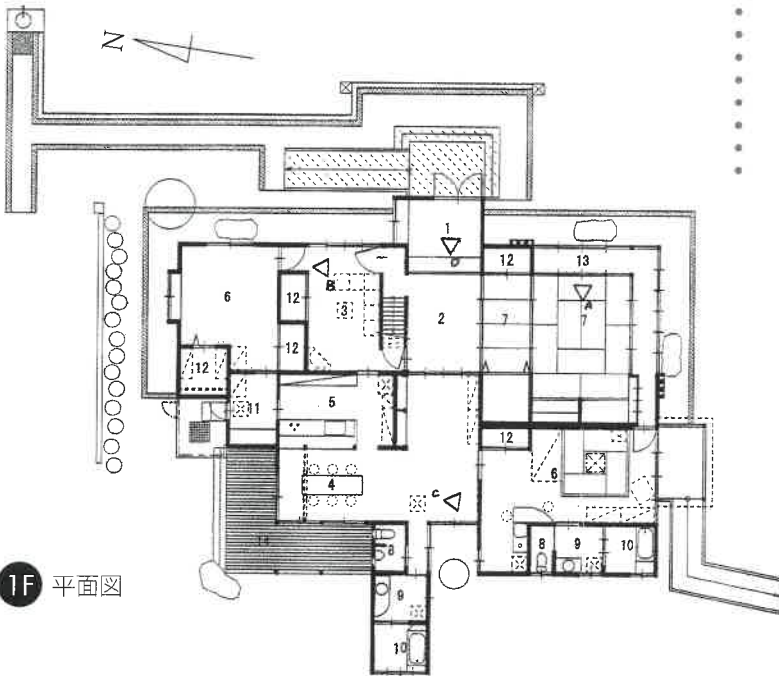


リビングルーム

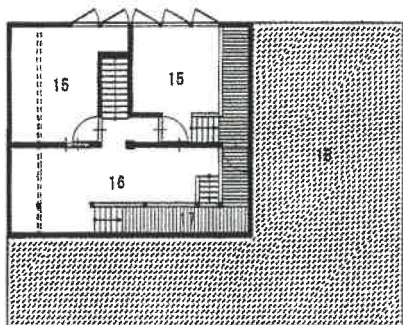


田迎の家

- 所在地 ■ 熊本市田迎1丁目749、750、752番地
 竣工年月 ■ 平成14年12月
 用途 ■ 専用住宅
 構造 ■ 木造
 階数 ■ 地上2階
 敷地面積 ■ 1,315.28㎡
 建築面積 ■ 299.17㎡
 延床面積 ■ 347.97㎡
 事業主 ■ 三原 紀
 設計者 ■ 有限会社UL設計室
 施工者 ■ 中村建築工房



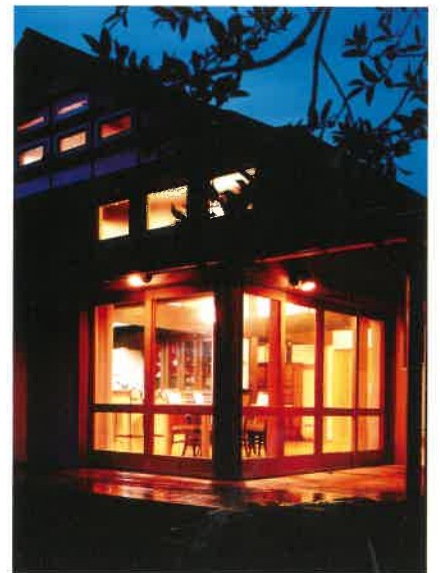
1F 平面図



2F 平面図



食堂



夜の外観(和室)

安政年間の創建で、明治末、昭和20年、昭和40年と三次にわたって改造された上、床下の腐朽とシロアリの害で崩壊しかけていたといえ、通例は建て替えしか考えられない。しかし、この家では、客間回りの繊細な造作と炊事場の上で力強い曲線を描く小屋梁が家人の愛着をつなぎとめ、設計者の創意を触発した。

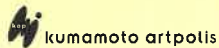
基本的な骨格と健全な古材はそのまま残したが、多くの新材を古色塗りせずに率直に組み合わせため、内部は明るい。完全に近代化された老人室、厨房、食堂、寝室、浴室もそうした基本的構成との違和感をほとんど感じさせず、古民家の重厚さがいぜんとして生き続けている。外観は民家風の新住宅といった体裁で、ことさらに旧態にこだわっていないが、旧家屋の外観はまったく魅力に欠けていたから、これも適切な判断であった。

つまり、内部も外部も単なる文化財的な復原修復法に頼らず、そこに生き残っていた建築的生命力の継承と未来への持続を計り、同時に建物の健全化・近代化を巧みに果たした好例といえよう。古民家再生の新しい手法と実務を示唆する作品として評価したい。

(桐敷真次郎)



くまもとアートポリス
推進賞選賞



東海大学附属第二高等学校

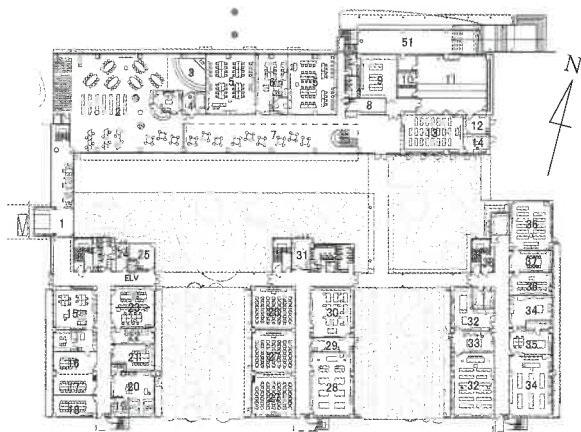
- 所在地 ■ 熊本市渡鹿9丁目1-1
- 竣工年月 ■ 平成15年12月
- 用途 ■ 高等学校
- 構造 ■ 鉄筋コンクリート造
- 階数 ■ 地上3階
- 敷地面積 ■ 82,437.34㎡
- 建築面積 ■ 6,302.74㎡
- 延床面積 ■ 11,579.78㎡
- 事業主 ■ 学校法人東海大学
- 設計者 ■ 大成建設株式会社
- 施工者 ■ 株式会社豊工務店

道路拡幅と既存校舎の老朽化を要因として全面建て替えとなった学校は、ガラスを多用された白亜の学び舎に生まれ変わった。三つのブロックからなる3階建ての教室棟と、2階建ての共用スペースを持つセンターハウスは、それぞれブリッジで結ばれ、開放感溢れる明るいキャンパスとなっている。生徒達は、正門又はJ Rの学園前入り口から登校し、グラウンドと校舎に挟まれたキャンパスストリートを抜けて、東門からそのまま2階へ続く生徒昇降口から、両面ガラス窓の渡り廊下を経て教室へ入る。

授業に集中できる距離に分散配置された校舎間のブロックコートは、授業の合間や昼休みの息抜きに絶好の緑の空間を形成しており、教室・図書室やラウンジの白いタイルと、それらを結ぶブリッジ、渡り廊下、バルコニー等に多用されたガラスが見事にマッチしている。それは、清潔感と透明感を持った構成となっている。

青春の輝く思い出を作る学生生活に、自信と誇りを感じることのできる学び舎になった、と言えるのではなからうか。

(星子邦子)



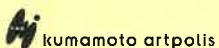
1F 平面図



メディアラウンジ



くまもとアートポリス
推進賞選賞



ひだまりのまち B4

- 所在地 ■ 熊本県八代郡宮原町大字宮原
- 竣工年月 ■ 平成15年12月
- 用途 ■ 店舗付住宅
- 構造 ■ 鉄骨準耐火構造
- 階数 ■ 地上3階
- 敷地面積 ■ 683.73㎡
- 建築面積 ■ 394.78㎡
- 延床面積 ■ 913.39㎡
- 事業主 ■ 宮原町B街区優良建築物等整備事業組合
- 設計者 ■ 有限会社FU設計
- 施工者 ■ 株式会社多々良

気ままに散歩していると、いつの間にかこの商店街の中に入っている。そんな自然体で付き合い合える一角が宮原町の真ん中に生まれていた。

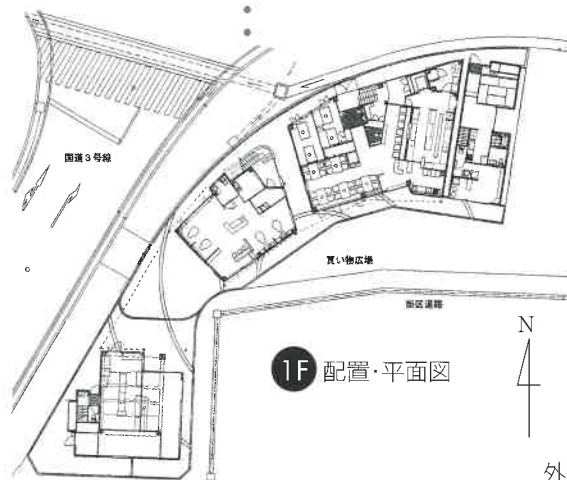
ここは国道3号交差点の改良工事のため、多くの商工業者や住宅が移転せざるを得なくなったブロック。中心部の空洞化を防ぎ再生をめざす宮原町、地域を愛する商業者の連携が居心地の良い「まち」を生み出したのだらう。基本構想から3年弱でオープンにこぎ着けた。

国道側に連なる店舗兼住宅は外壁や屋根などの外観をそろえ、どれも自己主張せず自然に視線が流れる。古いまち並みにもしっくりなじんで違和感がない。

国道から4店の間の路地を抜けると、買い物広場が待っている。ここは特別な日に訪れる空間ではなく、ゆったり日常の時間を送る場所。ほんの少しの「仕掛け」があれば、いつも子どもやお年寄りの笑い声、若い家族の会話が聞こえる広場になるだろう。広場に沿って東と南に走るタイル張りの街区道路は、この後に続く再開発の広がりを示している。

こじんまりした再開発。ここには地方のまちの中心部を生き返らせる幾つかのヒントが埋め込まれている。

(安達憲政)
























































1F 配置・平面図



外観▶

過去の受賞作品一覧 くまもとアートポリス推進賞(第1回～第9回)

2003年度 第9回										
	熊本保健科学大学 【熊本市】	I-HOUSE 【熊本市】	熊本市現代美術館 【熊本市】	UEDA. Residence 【熊本市】						
	2002年度 第8回									
		久野邸 【熊本市】	立田山野外保育センター 【雑草の森】 【熊本市】	八代の町屋 【八代市】	いのうえデンタルクリニック 【熊本市】	大野温泉センター 【芦北郡芦北町】				
2001年度 第7回										
		荏原九州 【玉名郡南関町】	K.Residence 【熊本市】	つなぎ美術館 【芦北郡津奈木町】	裨田の舎 【熊本市】	ガレリアのある舎 【玉名市】	chase 【本渡市】	キューネット社員寮 【熊本市】		
		2000年度 第6回								
	やつしろハーモニーホール 【八代市】		城南の舎 【下益城郡城南町】	中央町福祉保健センター 【潮の香苑】 【下益城郡中央町】	ネクステージビル 【熊本市】	熊本YMCA 阿蘇キャンメインホール 【阿蘇郡阿蘇町】	セカンドサイト 【熊本市】	霧の斎場 【球磨郡多良木町】		
	1999年度 第5回									
			水上村立湯山小学校 【球磨郡水上村】	中央町総合交流ターミナル 【石段の里 佐俣の湯】 【下益城郡中央町】	植柳新町公民館 【地域学習センター】 【八代市】	シルワ・エッセ 【熊本市】	50M-棟の森美術館 【阿蘇郡小国町】	宮崎耳鼻科 【熊本市】	矢野邸 【熊本市】	
			1998年度 第4回							
老人保健施設 かがみ苑 【八代郡鏡町】				熊本県信用保証協会 八代支所 【八代市】	HOUSE:H-M 【球磨郡あさぎり町】	水俣市保健センター 水俣市総合もやい直しセンター 【水俣市】	古閑邸 【熊本市】	聖母の丘 【熊本市】	宮原町下宮はまどん公園 【八代郡宮原町】	
1997年度 第3回										
		久連子古代の里 【八代郡泉村】		養護老人ホーム 八代市立保寿寮 【八代市】	水俣市営洗切団地 【水俣市】	丸尾焼工房 【本渡市】	人吉の舎Ⅱ/平井邸 【人吉市】	浮島周辺水辺公園 【上益城郡嘉島町】		
		1996年度 第2回								
	慈愛園ノーマンホーム 【熊本市】			阿蘇白水温泉 【阿蘇郡白水村】	ふるさとセンター-Y.BOX 【玉名郡横島町】					
	1995年度 第1回									
			小国町立西里小学校 【阿蘇郡小国町】	東陽村石匠館 【八代郡東陽村】	八代広域行政事務組合 消防本部庁舎 【八代市】	野田市兵衛商店 流通団地営業所 【熊本市】	清和物産館 【四季のふるさと】 【上益城郡清和村】	荒瀬ダムボートハウス 【八代郡坂本村】	出田眼科病院 【熊本市】	尚玄山荘 【玉名市】

■・・・くまもとアートポリス推進賞
■・・・くまもとアートポリス推進賞選賞

撮影：① 神原陽一 ③ 岡本公一 ④⑤⑥ 富重清治 ⑧ 石丸捷一

くまもとアートポリス2004とユニバーサルデザイン展

●主催:熊本県、(財)自治総合センター、
くまもとアートポリス2004とユニバーサルデザイン展実行委員会
●お問い合わせ:くまもとアートポリス2004とユニバーサルデザイン展実行委員会事務局
(熊本県土木部建築課内) TEL096-383-1111 <内線6215・6217>
<http://www.pref.kumamoto.jp/traffic/artpolis/index.html>



「くまもとアートポリス2004」記念 第10回 くまもとアートポリス推進賞 作品募集

趣 旨

熊本県は、環境デザインに対する関心を高め、都市環境並びに建築文化等の向上を図るとともに、世界への文化情報発信地「熊本」を目指し、後世に残る文化的資産を創造するため、「くまもとアートポリス」を推進しています。

この事業の目的を達成するため、コミッショナーが国の内外から推薦した設計者を参加事業主に紹介するプロジェクト事業や各種のイベント、広報事業等を行い、さらに幅広く県民の皆様の御理解を深めていただくため、平成7年から「くまもとアートポリス推進賞」の表彰を行っています。

この賞は、質の高い優れた建造物等を顕彰することにより、県民の環境デザインに対する意識の高揚と都市環境並びに建築文化等の向上を目指し、併せて豊かな地域づくりを図ることを目的としています。

また、今年はいくまもとアートポリス参加作品やユニバーサルデザインによる建物等、これまでの成果を広く内外に紹介し、県民主体による、熊本ならではの新しい生活文化創造を目指す「くまもとアートポリス2004とユニバーサルデザイン展」を11月(予定)に開催しますが、その行事の中で「くまもとアートポリス推進賞」の表彰を行う予定です。

2003年度 第9回受賞作品

くまもとアートポリス推進賞



熊本保健科学大学(熊本市)



I-HOUSE(熊本市)



熊本市現代美術館(熊本市)

くまもとアートポリス推進賞選賞



UEDA.Residence(熊本市)



募集要項

●表彰対象

平成16年3月以前、概ね5年以内に竣工(改造、改修、修復を含む)した熊本県内の建築物、橋、公園、記念碑等の建造物及びそれらで構成された一群の施設等(くまもとアートポリス参加プロジェクト及び県の施設を除く)とします。

●選考基準

本賞の選考は、建造物等の企画、設計、施工及び施設の利用について、次に示す評価のポイントをもとに総合的に評価します。

評価のポイント

- ① デザインが優れているもの
- ② 新しい技術的提案や工法の改善が行われているもの
- ③ 良好な施工が行われているもの
- ④ ひとや環境に優れた配慮がなされているもの
- ⑤ 施設の活用に創意工夫がみられるもの
- ⑥ 維持・管理が良好なもの
- ⑦ 地域づくりに寄与しているもの
- ⑧ 長いスパンのライフサイクルに配慮されているもの

●賞

賞は「くまもとアートポリス推進賞」、「くまもとアートポリス推進賞選賞」とします。

事業主(必要に応じて管理者を含む)、設計者及び施工者に知事が表彰状を贈ります。

●募集期間

平成16年7月20日(火)から8月23日(月)まで
なお、郵送の場合は募集期間内の消印があり審査に間に合ったものを有効とします。

●応募資格

自薦、他薦を問わず、どなたでも応募できます。

●応募方法

応募用紙(裏面)に必要な事項を記入のうえ添付資料を添えて、熊本県土木部建築課アートポリス班まで提出してください。添付資料は、配置図・平面図・立面図・断面図等の図面の外観及び内観の写真をA3版の用紙4枚以内(裏面使用は不可)にまとめてください。

応募者は、あらかじめ事業主、設計者、施工者、管理者の了解を得てください。

●選考方法

提出された書類による書類選考で概ね10作品程度を選出して現地審査を行い、現地審査を行った作品の応募書類と現地審査により最終選考を行います。

●選考委員(50音順)

安達 憲政	(熊本日日新聞社文化生活部編集委員兼論説委員)
桐敷真次郎	(東京都立大学名誉教授)
陣内 秀信	(法政大学教授)
轟 多朗	(デザインドロキ代表、熊本県文化協会理事)
早川 邦彦	(早川邦彦建築研究室代表)
星子 邦子	(オフィスホシコ代表)
堀内 清治	(くまもとアートポリスアドバイザー、熊本大学名誉教授)
渡辺 定夫	(東京大学名誉教授)

●発表

平成16年11月(予定)、該当者及び全応募者に通知します。

●表彰

平成16年11月に開催予定の「くまもとアートポリス2004」行事の中で表彰式を行います。

●その他

応募資料は返却しませんので、必要な場合はあらかじめ複写をお願いします。

提出先・問い合わせ先

熊本県土木部建築課アートポリス班

〒862-8570 熊本市水前寺6-18-1
電話/096-383-1111内線6215・6230 ファックス/096-384-9820
メール/kenchiku@pref.kumamoto.lg.jp
ホームページ/http://www.pref.kumamoto.jp/traffic/artpolis/index.html

「くまもとアートポリス2004」記念 第10回 くまもとアートポリス推進賞応募用紙

(用紙は、このままか、又はコピー等をして使用してください。)

応募者

【氏名・所属等】 【住所】

【電話】 【FAX】 【電子メール】

対象建造物等 (建築物以外については項目を適宜修正して記入してください)

【名称】 【用途】

【所在地】

【竣工年月】 年 月 【構造】 【階数】 地上 階、 地下 階

【敷地面積】 m² 【建築面積】 m² 【延べ面積】 m²

事業主

【会社名・氏名】 【住所】

【電話】 【FAX】

【電子メール】 【ホームページ】

設計者

【会社名・氏名】 【住所】

【電話】 【FAX】

【電子メール】 【ホームページ】

施工者

【会社名・氏名】 【住所】

【電話】 【FAX】

【電子メール】 【ホームページ】

管理者

【会社名・氏名】 【住所】

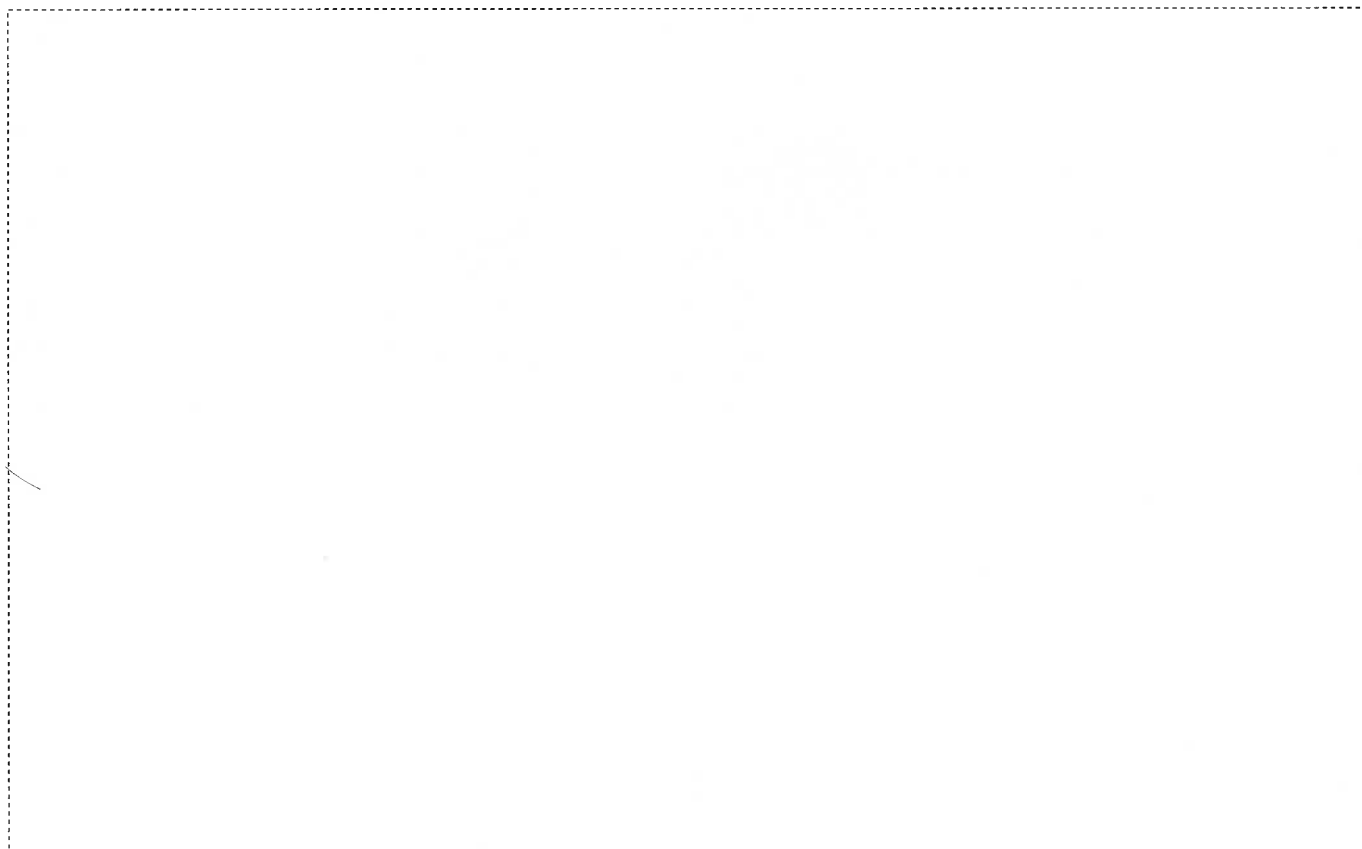
【電話】 【FAX】

【電子メール】 【ホームページ】

●以上の欄で記入しきれない場合は、この用紙をコピーして使用してください。その際、事業主等の区分は必要に応じて、設計者、施工者、管理者に修正されても構いません。

対象建造物の特色（400字程度）

付近見取り図（対象建造物の位置がわかるもの。コピーを貼り付けても構いません。）



添付資料

図面と写真（外観・内観）をA3判の用紙4枚以内（用紙は横長使いとし、裏面の使用及び2枚以上をつなぎ合わせることは不可）にまとめてください。図面は、配置図・平面図・立面図・断面図等とし、縮尺を明記してください。